NO.731 2022 — 2023　　聖イグナチオ教会報

12・1月

カトリック麹町教会

magis

マジス　＝　「より、もっと、さらに」

教会テーマ　イエスがたたく希望の扉をひらいていこう　新たにつながるために　2030年に向けて一歩ずつ

主のご降誕　祝　2023年

Dear 主イエス

主任司祭　サトルニノ・オチョア

お誕生日おめでとうございます。あなたはいつも約束を守る方だと私は知っています。だからあなたは今年も私たちの世界においでくださいます。

あなたの名前は、「神が私たちと共にいて、私たちを救って下さる」という意味ですね。私たちの悩みの時も、幸せの時も。

今年はどうしてもあなたが救いをもって、私たちの世界に来てくださることが必要です。ご存知のように、酷い戦争が行われています。さらに、3年間続いているコロナウイルス感染症はまだ猛威を振るっています。

主イエス、今、私たちの家は滅茶苦茶であまり綺麗ではないです。ごめんなさい。だけど、どうしても来て下さい。あなたの恵みが必要です。

いらっしゃる時にふたつのプレゼントをどうか忘れないで下さい。ひとつは世界の平和、私たちの心の平和。ふたつ目は健康です。私たちが私たちの教会に帰る力をお与え下さい。

自由で妨げのない状態で教会に集い、もう一度大きな声で、聖歌を歌い、ひとつの声になって共に祈りをささげることができるための健康をもって来て下さい。

主イエス、ありがとうございます。

追伸　マリア様とヨセフ様によろしくね。

主の御降誕おめでとうございます

助任司祭　ボニー・ジェームス

クリスマスは大きな喜びの時です。イエス様が生まれた馬小屋をみつめると、そこに様々な人たちが並んでいる様子がわかります。王様も羊飼いも自分たちの立場の違いを忘れてひとつになり、仲良く並んでいてイエス様を讃美しています。イグナチオ教会も同じようになれば良いですね。

今年は教会では毎年作っている馬小屋に加えて、ベトナム人共同体も馬小屋を作ります。それぞれの共同体が作る馬小屋にはそれぞれの国の特徴や色がありますが、それぞれが世の創り主、イエス様をたたえ、その喜びを美しく伝えているということでひとつの目的を目指しています。このようにしてクリスマスは私たちをひとつに結ぶお祝いです。

教会共同体のこのつながりが大きな恵みであり喜びであると言えます。様々な言語や文化の背景のあるイグナチオ教会共同体が、これからもその多様性のなかで一致を目指して歩むことができますように。

「光は暗闇の中で輝いている」（ヨハネ1:5）

助任司祭　グエン・タン・ニャー

主の御降誕と新年、おめでとうございます。

今年もコロナがまだまだ続きましたが、教会での活動は少しずつ戻る状態になっています。少し光が見えているのではないかと感じています。みなさんへのご挨拶を考えている時、「光は暗闇の中に輝いている」というヨハネ福音書が頭の中に浮かんできました。その光は主イエスです。主イエスは毎年のクリスマスだけではなく、いつもこの世を照らしています。そして、暗闇の中にこそ光が輝くことを忘れてはならないです。今こそ、光である主イエスに照らされた私たちが、周りの人々のための光になっていくことができますように。

平和への祈り

助任司祭　柴田潔

クリスマスミニバザーでは、JRS（イエズス会難民サービス）を通してウクライナ支援にご協力いただきありがとうございました。

（次ページに続く）

【12 月 24 日、25 日の共同祈願】

世界中の苦しんでいる

子どもたちのために祈ります。

イエス様の誕生を共に喜び、心穏やかに過ごし、

隣人を愛することができますように。

担当：先唱グループ

【1 月の共同祈願】

教会に集う私たち一人ひとりが、

いつどこにあっても、

主のみ言葉から恵みと力をいただき、分かち合い、

ともに希望を持って歩むことができますように。

担当：日曜サロン

（1ページから続く）

新年のはじめ、平和について『アンネの日記』のシーンから考えます。

アンネ：ペーター、何かを信じることが大事よ。私は外のこと、大切なあなたのこと…私たちのために命を懸けている人のことを考えると怖くなくなる。自分も神様も取り戻せるの。

ペーター：素晴らしいよ。でも…2年も隠れたまま。動くこともできず、捕まるのを待ってる。

アンネ：私たちだけじゃないわ。昔からいろんな民族が苦しい目に遭ってきたわ。こんな恐ろしい世の中で、何かを信じるのは難しいわ。でも、私は思うの。今に世界も変わるわ。いつかこんな時代は終わる。こんな世の中でも私は信じてるわ。人間は本来は善よ。

今、戦争で苦しんでいる方々と共に平和のために祈りましょう。防災の実務チームも発足しました。平和・命を大切に守る一年にしましょう。

クリスマスおめでとうございます

協力司祭　ネロソ・フローレス

クリスマスは昔々、中近東の小さな町でイエスという男の子が生まれた記念です。その男の子の誕生日はキリスト教では最も大切な祝日です。「どうして？」

宇宙万物と人類の創り主である全能の神はご自分がお創りになった人類を無限に無条件に愛したから、その人間になりたくてマリアからお生まれになった。

こうして神であり人間でもあったイエス・キリストは人類を「神の家族」にしてくださいました。そして人間は「神の子供」となり、神様と最も親しい交わり「親子関係」を味わう事ができるのです。だからクリスマス期間はキリスト信者に特別な「驚き」「喜び」「感謝」「祝賀」「親切」の雰囲気をもたらすのではないでしょうか。

クリスマスと新年おめでとうございます

協力司祭　ハビエル・ガラルダ

自分を待ってくれる人がいる私達にとってクリスマスは嬉しい時期です。しかし、待ってくれる人のいない人々にとってクリスマスは普段よりも寂しい時です。貧困、戦争、無縁社会の犠牲者、ホームレス、高齢者、多くの囚人のような人々に待ってくれる人はいないのです。クリスマスの時も、その後もずっといないでしょう。

待ってくれる人がいなくて馬小屋で生まれたイエスは、この寂しい人々をいつも待っています。その人々が死んだ時にも待って迎えるのです。

この人々が待ってくれる誰かに恵まれるように、また待っておられるイエスを感じるように祈りましょう。

私達もこのような人々をなるべく待って迎えましょう。

人間同士の結びつきを広げて

協力司祭　関根悦雄

クリスマスは受肉の玄義を理解し、味わう好機です。神は愛する人類を滅びから救うために、私たちと同じ姿をとって、私たちの間に生まれてくださいました。

ここから私たち人間同士のかかわりにとって大事なことが学べると思います。他者を真に理解するには、相手の身になって考える、相手の立場に立って考えを巡らしてみることが必要だということです。私たちが真の理解を通して人間同士の結びつきを広げていけたら幸いと思います。

教会報 MAGIS 12・1 月合併号

† クリスマスメッセージ　P3
・イエズス会姉妹教会から
・Family of St.Ignatius から

† ミッション2030プロジェクトチーム　P4
皆でともに歩んでいくために

†「病者の塗油」について　P5

† 連載　光をつないで①　P6

クリスマスおめでとうございます

元主任司祭の英神父がこちらに異動しましたので、皆さん方の中には六甲教会に関心が湧いている方がおられるかもしれません。コロナの危機は続いていますが、少しずつ旅行もできるようになりました。イエズス会の教会同士、少しずつ交流を深めていきましょう。シノダリティー（ともに歩む）を大切にしながら。

六甲教会　主任司祭　英 隆一朗

イエズス会姉妹教会から

Merry Christmas

さようならだけが人生でしょう

広島教区白浜司教様が祇園教会に訪れ、ミサ中に「この教会は来年度復活祭をもって広島教区に移管される」ことを正式に発表されました。

かつて聖イグナチオ教会、六甲教会、山口教会の方々と交わりを歩んできた祇園教会。

さ、新たな出発です。ありがとう、アーメン。

祇園教会　主任司祭　李 相源

ご降誕おめでとうございます。

マスク、手指消毒、検温と続く中、ウクライナ戦争と重なる下向き気分ですが、神様から贈り物が届きます！ しっかりと両腕で受け止め、幼子イエスと対話をしましょう。一人ひとりの対話が小教区の信徒との対話、分かち合い、交わりとなりますように。

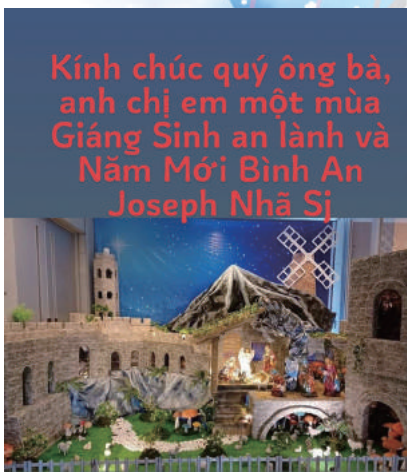
山口カトリック教会
主任司祭 アルフレド・セコビア SJ
ルイス・カンガス SJ　外川 直見 SJ　信徒一同

Family of St. Ignatius から

Merry Christmas

▲英語圏から

▲スペイン語圏から



▲ベトナム語共同体から

◀インドネシア語共同体から

▲ポルトガル語圏から

▲ポーランド語ミサグループから

ミッション2030

皆でともに歩んでいくために

ミッション2030プロジェクトチーム　星野和子

聖イグナチオ教会の指針「ミッション2030」が策定されて5年。この指針により親しんでいくことができるよう、新たな組織「ミッション2030プロジェクトチーム」が2022年9月に発足しました。同プロジェクトチーム代表の星野和子さんに、これまでの「ミッション2030」の歩みと今後の活動について、寄稿していただきました。

◆ミッション2030とは

聖イグナチオ教会では、2017年から「ミッション2030」に取り組んでいます。

「ミッション2030」ってなに？ 最近受洗された方や転入された方はご存じないかもしれません。また、「耳にタコができた」という方もおられるかもしれませんが、ご一緒に「ミッション2030」に取り組むことになった経緯を振り返ってみましょう。

「ミッション2030」は、私たち信徒が、そして聖イグナチオ教会が、何を大切にし、どのような目標に向かって歩んでいけばいいかという方向性を示した指針です。

当教会には大勢のすばらしい神父さまや修道者がおられ、私たちとともに信仰の道を歩んでくださっています。しかし約20年前に主聖堂が献堂されたときと比べて、その数は半減しています。2030年頃には、「主任司祭と助任司祭一人の体制になるかもしれない」とも予測されています。

このような危機感を抱いたこともきっかけとなり、2015年度に大勢の信徒が参加してワークショップやアンケートを行い、「当教会の良い点、欠けている点」「どのような教会であるべきか」「どのような信仰の道を歩めば良いか」などを分かち合いました。

その中で私たちは、祈りの大切さ、福音を伝えていくことの大切さ、人と人とのつながりや、皆で支え合いながら生きていくことの大切さに改めて気づかされました。さらに、神父さまやシスターに頼るばかりではなく、自立した信仰生活を歩んでいくことの必要性にも気づかされました。

こうした経緯を経てできあがったのが「ミッション2030」という指針です。

左に、「ミッション2030」の前文をご紹介させていただきます。この前文に私たちの祈り、気づき、願い、そして目標が込められています。あらためてゆっくりと、一言一言、味わいながらお読みになってみてください。

◆教会は私たちの〝家〟

「ミッション2030」のスタートから5年。皆さまにさらにこの指針に親しんでいただけるように、そして一人ひとりがこの方向性に向かって歩んでいけるように、新たな組織「ミッション2030プロジェクトチーム」が発足致しました。

当チームは、コロナ禍で教会から離れている方々をどうお迎えするか、ご高齢の方々とつながりを深めるにはどうすれば良いかなど、おもにいま教会が抱えている問題に取り組んでいく所存です。分かち合いの集いなども計画していますので、お気軽にご参加ください。その他具体的な取り組みは『マジス』やポスターなどでご案内して参ります。

オチョア神父さまは今年4月、主任司祭として戻ってこられたときに、「家に帰ってきたかのように嬉しかった」とおっしゃってくださいました。私たちもこの教会をわが家と思えるように、また、社会の人々にとっても開かれた家となるように、人と人とのつながりを大切にするあたたかな共同体を育てて参りましょう。

ミッション 2030 ―前文―

私たち聖イグナチオ教会は、
祈りにもとづく使徒的共同体を生きていきます。
現代の社会は、命の軽視や孤独、過度の競争原理や格差、
環境破壊など、未来に希望を見いだしにくい
反福音的なものに脅かされています。
それに対して、私たちは自分たちの殻に閉じこもることなく、
いつくしみの扉を開いていきます。
私たちは、同伴者イエス・キリストと心を合わせて、
貧しい人や弱い人の声を聴き、
皆でともに手をたずさえて（日本人も外国人も、老いも若きも）、
福音の喜びを分ち合っていく使命を生きていきます。

教会行事

10月中旬から11月上旬に行われた主な教会行事をご紹介します。

●第2回幼児洗礼式

10月23日(日) 10時のミサの中で、今年度2回目の幼児洗礼式が行われました。司式はサトルニノ・オチョア主任司祭で、7人の子どもたちが洗礼の恵みに与りました。「今日は大きな喜びの日です。子どもは意識していませんが、教会と親の信仰のもとで成長し、自分の信仰を守っていきます。子どもは未来です。神の家まで走ることができるよう、失敗しても励ましましょう。順位はどうでもいい。そして、最後まで信仰を守れるようにお祈りしましょう」と話されました。

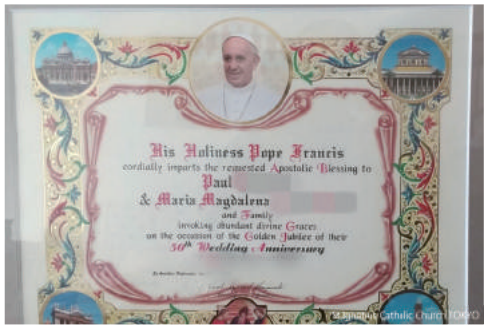
▲祭壇の前に立ち、洗礼の恵みを受けて

●結婚感謝ミサ

10月30日(日) 10時ミサの中で、結婚感謝の祝福が行われました。

司式のオチョア神父はミサ説教で福音朗読(ルカ19:1～10)を受けて「イエスは回心した徴税人のザアカイ(罪の無い人の意味)を受け入れ、家に泊まって共に食事をしました。私たちも謙虚になって心のドアを開け、喜んでイエス・キリストを迎え入れましょう」と話されました。

その後、結婚の誓いの更新、祝福の祈り、ローマ教皇庁からの祝福記念証書の授与が行われました。



▲バチカン発行、「祝福記念証書」(金婚式)

●七五三祝福式

11月5日(土)15時半から主聖堂にて行われました。晴天にも恵まれ、晴れ着に身を包んだ51名の子どもたちと保護者が集まり、前庭に歓声が響き渡りました。

共同司式の柴田神父は「みんなが元気に育つことは、教会の希望、宝物です。今日お祝いされたみんなは、『ありがとう』の言葉をご両親や教会学校リーダーなど、皆にかけてあげてください」と話され、祝福式の記念としてオチョア、柴田両神父から首にかけるメダイと千歳飴の授与と祝福がなされました。

▲両神父様から祝別されたメダイをいただいて

柴田潔神父に聞く「病者の塗油」について

病気などの時に助けをいただく秘跡が「病者の塗油」であることは理解していても、実際にどのような時に、どのようにお願いしたらよいのか、あまり知る機会はないかもしれません。

そこで、典礼担当の柴田神父に「病者の塗油」について、わかりやすく説明していただきました。

病のときに祈ることはたやすいことではありません。生きる希望を見失ったり、孤独に陥ることもあります。けれども苦しみをイエスと共にするときに、パウロの言葉がより身近に感じられるのではないでしょうか。

「今やわたしは、あなたがたのために苦しむことを喜びとし、キリストの体である教会のために、キリストの苦しみの欠けたところを身をもって満たしています」(コロサイ 1:24参照)

塗油を授けることで、信仰の力がまたみなぎった方々がおられます。

秘跡の意味を実感できるときに

以前は「終油の秘跡」と言われ、亡くなる直前でないと受けられないように理解されていました。しかしそのようなことはありません。秘跡の意味を実感できるときに受けられるのをお勧めします。教会事務所にお問い合わせください。司祭が伺います。

ご聖体のお届けについては病者のための聖体奉仕グループがございます。同じく、教会事務所にお問い合わせください。または、教会ホームページをご覧下さい。

連載　光をつないで ①

「砂漠の神」と出会って

「光をつないで」は、当教会の青年信徒が聞き手となり、信仰上の諸先輩からその人生と神との交わりについての話を聞くことで、神とともにこれからの人生を歩むためのヒントを得ることを目的とした新連載です。1回目は、当教会信徒 パウロさん（80歳）に伺いました。※語り手の名前は洗礼名

――神様と出会うまでの人生の道のりを教えていただけますか？

戦時中東京に生まれ、疎開先の熊本で空襲に遭いました。戦後は日本各地を転々とし、東京に戻っていた12歳のとき、近所の英文学者が塾を開いたことがきっかけで英語の勉強を始め、6年間必死で食らいつきました。高校を卒業する頃には自然と、英語を使用して学び働くことを志すようになっていました。

妻と出会ったのは、大学卒業後に就職した会社です。妻はカトリックの信者で、私も結婚式のために教会の結婚講座に通いました。しかしこのときはまだ、彼女の信じるものが何であるかわかりませんでした。

度重なる危機を救ってくれた「砂漠の神」

30代後半の2年間、中東に単身赴任しました。日本人の仲間がいるバーレーンの拠点から、アブダビやオマーンといったアラブ人社会の地にたった一人出向き、交渉しなくてはなりません。文化の違いにも戸惑いましたが、生命の危機にさらされることも少なくありませんでした。乗っていたタクシーのエンジンが爆発したり、突然飛行機が地上すれすれまで急降下したり、兵士に銃口を突きつけられたり…。交渉の上でも、生きていく上でも、まさに「万事休す」と思われたその瞬間、毎回どこからともなく救いの手が差し伸べられるのです。奇跡としか言いようがないようなあり得ない出来事が日常的に起こり、その度に「今回もまた救われた」と思いました。比喩的に「救われた」と言っているのではなく本当に、何か大きな存在が差し伸べてくれた手によって、命拾いしたとしか思えないのです。

今なら神はみな同じだとわかりますが、当時はそのようなことが起こるたびに「アラブの神が救ってくれた」と感じました。炎上するタクシーとともに見渡す限りの砂漠で立ち尽くす私を救い出してくださった「砂漠の神」です。

▲「砂漠の神」に何度となく救われた、中東赴任時代

聖書の言葉を生きる妻に導かれて

50代で赴任した欧州では、度重なる海外赴任に伴う妻の苦労に少しでも報いるために、毎月のように2人で各地の教会へドライブしました。荘厳な聖堂と美しいステンドグラスに描かれた聖書の場面を目にするたびに、聖書を学びたいという熱意が湧き起こりました。目にするもの、耳にするもの、西欧芸術の隅々にまでキリスト教の影響が感じられました。退職後最初にしたことが、どこに行けば聖書を勉強できるか妻に尋ねることでした。妻の勧めに従って訪れたのが聖イグナチオ教会です。やがて、砂漠で救ってくれたのと同じ神が、私を呼んでくれていたのだと知るようになりました。

――大切にしている聖書箇所を教えてください。

「与うるは受くるより幸いなり」（使徒言行録20：35）です。妻を見てきて学んだことです。難病の手術で東京に来る子どもの親に自宅の一室を提供する活動に、妻は長年取り組んできました。今は専用の施設ができ、そのような需要はなくなりましたが、身近で聖書の言葉を実践する妻に、私は導かれてきたのだと思います。

◇

中東赴任時代、人々との時間感覚の違いから忍耐強さを養えたと笑顔で振り返るパウロさん。危険や不確実性を伴う不便さの中、己の非力さを痛感させられるときに、神の働きはよりはっきりとその輪郭を私たちの間に現すのかもしれない。タクシーのエンジンが爆発したとき、砂漠の真ん中で助けを求めるパウロさんと運転手を拾ってくれたのは、他のどの高級車でもなく混雑した乗り合いタクシーだったそうだ。遊牧の民ベドウィンの老人が差し出してくれた水を、乗客皆で回し飲んだのだと懐かしげに語ってくれた。真の隣人について語る聖書のたとえ話が、鮮やかに思い起こされた。

●11 月の宣教司牧評議会からのお知らせ●

（11月10日開催）

1．**「一筆キャンペーン」**
クリスマスや新年のご挨拶用ポストカードをご用意しました。手紙を書いて、お互いの心の扉をたたきあい、途切れているつながりを取り戻しましょう。
※詳細は、ポスター・チラシをご覧ください

2．**「新年炊き出し」**
2023年１月２日(月)正午～、福祉関連グループ有志で行います。

3．**2023年新年祝賀会**
１月８日(日)今年もオンライン配信のみで予定しています。

4．「ミッション 2030 プロジェクトチーム」より新しい取り組みとして、【祈り・つたえ・つながり・ともに歩む～小さな私たちの分かち合い】の開催と【かわらばん】の発行を予定しているとの報告があり、承認されました。

5．教会を訪れる方に向けた QR コード入り小さなカードの作成
ホームページや「オンライン教会ツアー」「心のオアシス」等へのアクセスのために日本語・英語・スペイン語で順次作成予定ですので、ご活用ください。

●2023 年度信徒評議員候補者推薦のお願い●

当教会の運営･管理は宣教司牧評議会の下で行われています。宣教司牧評議会は、司祭団、シスターと信徒評議員12名によって構成されます。詳細は投票用紙でご確認ください。

推薦受付期間:2022年12月４日(日)～2023年１月８日(日)

主任司祭　サトルニノ・オチョア

●カレーの会から●

生活困窮者の方々に「使い捨てカイロ」のご寄付をお願いします。

●12月のお知らせ●

（11月25日要旨）

1．クリスマスミサと元旦ミサ
1)12月24日(土)クリスマスイヴミサ
①12:00　高齢者・基礎疾患のある方のため
⇒予約なし
②15:00、17:00、19:00、19:30(ベトナム語)、21:00(英語)
⇒ネット個人予約または事務室での申込書記入
予約受付は12月10日(土) 15:00 から
2)12月25日(日)クリスマスミサ
① 7:00、18:00　⇒予約なし
② 8:30、10：00、10:00(ベトナム語)、12:00(英語)、13:30(スペイン語)、16:30(英語)
⇒ネット個人予約または事務室での申込書記入
予約受付は12月18日(日)15:00 から
3)1 月 1 日(日)元旦ミサ
・ミサ時間は普段の主日と同じです。
・8:30、10:00 は通常のグループ予約、ネット個人予約です。
・深夜 0 時ミサを行います。⇒予約なし

2．平日のミサ
・12月 5 日(月)から 7:00 ミサを再開します。
⇒予約なし
・グループ申込ミサ、18時聖体賛美式は中止を継続します。

3．ゆるしの秘跡
・12月24日(土)　13:00 から15:00　信徒会館 3F
・12月25日(日)～１月６日(金)までお休みします。

●第 4 回あしたのいえ講演会●

「コロナ禍の若年女性の支援を通して、今社会に伝えたいこと」
講師：NPO法人妊娠SOS新宿　理事長佐藤初美 氏
日時：2023年１月28日(土)14:00～15:30　オンライン(Zoom)開催
皆さま、どうぞ奮ってご参加ください。詳細はチラシ、ポスターにてご案内しています。

12月の典礼と行事

2　（金）　初金曜日	
3　（土）　聖フランシスコ・ザビエルの祝日	
4　（日）　待降節第 2 主日	**クリスマスミニバザー②　宣教地召命促進の日・献金** 日曜サロン、ミニオリエンテーション 11:00 ～ 12:30　ヨセフホール
8　（木）　無原罪の聖マリアの祭日	**ミサ　7:00　12:00　18:00　東京カテドラル献堂記念日**
11　（日）　待降節第 3 主日	
14　（水）	傾聴ルーム　13:00 ～ 15:00　ヨセフホール
17　（土）	**子どもと家庭のクリスマスミサ　14:00**
18　（日）　待降節第 4 主日	
24　（土）　降誕祭前夜（クリスマスイヴ）	**降誕祭前夜ミサ　12:00（高齢者・基礎疾患のある方）　15:00　17:00　19:00（キャンドルサービス）　19:30（ベトナム語）　21:00（英語）**
25　（日）　主の降誕の祭日	**ミサ　7:00　8:30　10:00　10:00（ベトナム語）　12:00（英語）　13:30（スペイン語）　16:30（英語）　18:00**
28　（水）	傾聴ルーム　13:00 ～ 15:00　ヨセフホール
30　（金）　聖家族の祝日	**ミサ　7:00　12:00　18:00**

1月の典礼と行事

1　（日）　神の母聖マリアの祭日	**元旦ミサ（0 時と主日と同じ時間）※ 0 時は予約なし　世界平和の日**
6　（金）　初金曜日	
8　（日）　主の公現の祭日	子どもとともにささげるミサ　10:00 **新年祝賀会　※オンライン配信のみ** **成人式ミサ　18:00**
9　（月）　主の洗礼の祝日	
11　（水）	傾聴ルーム　13:00 ～ 15:00　ヨセフホール
15　（日）　年間第 2 主日	サントニーニョフェスティバル　16:30
18　（水）	**1 月 18 日～ 25 日キリスト教一致祈祷週間**
21　（土）	新受洗者と代父母のためのフォローアップ講座
22　（日）　神のことばの主日	**教会活動連絡会議　13:00　ヨセフホール　ケルンデー** 日曜サロン 11:00 ～ 12:30　ヨセフホール
25　（水）	傾聴ルーム　13:00 ～ 15:00　ヨセフホール
29　（日）　年間第 4 主日	日曜サロン 11:00 ～ 12:30　ヨセフホール　**世界こども助け合いの日・献金**

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため予定が変更になる場合があります。

●年末年始の教会事務室・クリプタ●

・12月26日（月）～ 1 月 5 日（木）まで通常業務はお休みです。

・証明書などの発行依頼はお早めにお申し出ください。

・信徒会館は12月26日（月）～ 1 月 5 日（木）まで19時閉館となります。

・クリプタ申込、納骨に関する業務は12月12日（月）～ 1 月 6 日（金）までお休みです。お参りは平常通り 9 時から16時までできます。

●クリスマス・年末年始の案内所●

・12月24日（土）　11:00～21:00 頃
・12月25日（日）　9:30～17:00
・12月26日（月）　お休み
・12月27日（火）　11:00～17:00
・12月28日（水）～ 1 月 3 日（火）までお休み、4 日（水）から通常通り

●枝の回収●

本年 4 月の「枝の主日」で祝福された枝を 1 月21日（土）から 1 月29日（日）の日程で回収いたします。

主任司祭：サトルニノ・オチョア
助任司祭：ボニー・ジェームス
　　グエン・タン・ニャー
　　柴田　潔
協力司祭：ヘネロソ・フローレス
　　ハビエル・ガラルダ
　　関根　悦雄
　　マヌエル・シルゴ
シスター：イベッテ・サンチェス
　　（セントロ・ロヨラ）
　　フロール・フロレーセ
　　（ジョン・デ・ブリット　イングリッシュセンター）

ミサ参加方法はホームページ、教会事務室で確認してください。

ミサ時間　Mass

【平日 Weekday】
7 :00（聖体顕示）主聖堂　Main Chapel
12:00/18:00（ミサ又は聖体顕示、聖堂は要確認）

【土、日曜日 Saturday & Sunday】主聖堂　Main Chapel
土曜 18:00 日曜 7:00/8:30/10:00/18:00
12:00（English）/13:30（Español）/
15:00（Việt Nam）/16:30（English）

【月の第 1 日曜日 1st Sunday】
Our Lady's　Chapel
12:30（Português）/16:00（Polski）

【月の第 2 第 4 日曜日　2nd & 4th Sunday】
Our Lady's Chapel　16:30（Indonesian）

カトリック麹町教会
（聖イグナチオ教会）
〒 102 － 0083
千代田区麹町 6 － 5 － 1
TEL 03 － 3263 － 4584
FAX 03 － 3263 － 4585
http://www.ignatius.gr.jp

ホームページ　フェイスブック

『マジス』へのご意見ご要望などのお便りは事務室までお寄せください。